

# SMC金融・経済マーケットレポート

Reporter Your Financial Brain SMC 豊島 健治

## 金利引き上げの現実 (上がらない、上げられない)

つい最近までその事実を知らなかった。

ご承知のように、昨年7月日銀のゼロ金利政策が解除された。そして、それを待っていたかのように銀行を始め各金融機関が一斉に金利を上げた。預金金利を上げるとほぼ同時に貸出金利の引き上げにかかったのだ。私の記憶では、最大手である東京三菱UFJ銀行が8月10日から短期プライムレート(短期最優遇金利、以下短プラ)を0.25%上げる旨発表した。それに呼応するように相次いで都銀、地銀が短プラ0.25%引き上げを発表した。その見事な連携を見て、私はてっきり8月一杯で金融機関の短プラ0.25%引き上げは完了したと思っていた。しかし、現実とは違っていたことを専門誌で知った。

専門誌によれば、取引先等の動向を見極めるため一部の地銀で短プラ引き上げを遅らせたとのことだった。そこで、地銀及び第二地銀のホームページで引上げ実施時期を当たってみた。結果の一部は下記の通りである(併せて地元3行も記載してみた)。

	発表日	実施日	新短プラ
千葉銀行	06.7.28	06.8.10	2.000%
千葉興銀	06.7.31	06.8.11	2.000%
京葉銀行	06.7.31	06.8.10	2.125%
北海道銀	06.8.31	06.9.26	2.125%
北陸銀行	06.8.25	06.9.14	2.125%
泉州銀行	06.8.25	06.9.12	2.375%
山口銀行	06.12.25	07.1.4	2.125%
もみじ銀	06.9.1	06.10.10	2.375%
琉球銀行	06.9.15	06.9.29	2.125%

調べていて幾つかのことが分かった。列举すると、短プラ引上げを公表していない地銀も散見された、公表地銀の多くは、引上げを8月初めに発表している、最も多い短プラは2.125%だった、引上げが遅れた地銀は比較的小規模な地銀だった、等である。

実際、上表のように9月を通り過ぎて10月にずれ込んだり、年明けに遅れた地銀が存在したことには正直驚いた。実行できるかどうかは別として、横並びで公表だけはするというのが私の知っている銀行だからだ。発表がずれ込んだ銀行の続出は、昨年のゼロ金利解除に伴う金利引上げ

が現場ではスムーズに進まないことを銀行自身が認識していたからだと思う。

一方、日銀公表資料は、地銀等の金利引上げ作業が難航していることを明瞭に語っている。同資料から、昨年8月から今年2月までの7ヶ月間の短期貸出の金利引上げ推移を調べると下表のようになった。(単位:%)

	7ヶ月通算上げ幅		追従率	
	新規	ストック	新規	ストック
都銀	0.285	0.210	114%	84%
地銀	0.085	0.157	34%	63%
地銀	0.004	0.048	2%	19%

都銀は平均の短期貸出金利水準が1.1%~1.3%程度で下限に張り付いていることから短プラ引上げ分はしっかり上げていることが分かるが、地銀は既存貸出分(ストック)で6割強上げしているものの、新規貸出では逆に下がっている状態にある。第二地銀至っては新規も既存も殆ど上がっていないのが現状だ。

伝えられる話などを総合して何故貸出金利引き上げが難航しているかの理由を挙げると、金融環境の好転により企業側が強気に転じている、営業現場では金利上げ経験のない行員が多数を占めるようになり金利引上げ交渉力が弱まっている、資金需要が低迷する中で業績好転先に対する貸出競争が一層激化している、適用金利を短プラ方式から市場金利連動型に移行する中小企業が増加し実質貸出金利が低下している、等が云えるようだ。実際、今でも1%を切る金利を適用して貰っている優良中小企業もあるようで驚くが、皆さんの実感はどうだろうか。金融機関の弱腰を感じているのではないだろうか。

金融危機露出から10年が経った。その間、銀行も苦しんだかもしれないがそれ以上に企業も苦しんだ(と思う)。倒産も続出したが、財務リストラ等で多くの中小企業で金融機関依存度が徐々に低下した。それに加え、資金調達手段も多様化し、金融機関と中小企業の力関係に変化が生じている。短プラ改訂後の貸出金利推移はそれをよく示しているように見える。

3月、金融機関は短プラを更に0.25%引き上げた。既に引き上げ交渉が本格化していると思うが、安易に応ずるのではなく、前述のような状況を踏まえて対応してはどうだろうか。

Weekly Fax Report

《複製・転載等はこちらまでご連絡下さい》

URL: [http://www.hi-ho.ne.jp/smc\\_toyo/](http://www.hi-ho.ne.jp/smc_toyo/)

2007.4.21(第551号)

TEL. 0438-53-6092 FAX. 0438-53-6096

Email: [smc\\_toyo@hi-ho.ne.jp](mailto:smc_toyo@hi-ho.ne.jp)